

## 第41回 日本毒性病理学会総会及び学術集会 ＜研究発表のご案内＞

- ポスター発表 2025年1月30(木)、31(金)日終日 ポスター・展示会場

ポスター番号:P-52 ○遠藤太伯郎（株式会社ボゾリサーチセンター）

演題名 : Histopathological features of a subcutaneous mass observed in the occipital region of an aged CrI:CD (SD) rat

雌性 CrI:CD(SD) ラットの後頭部皮下に自然発生した腫瘍を病理組織学的に評価した。組織学には紡錘形でわずかな好酸性細胞質を有する細胞が密な領域とアルシアンブルー陽性の基質に束状に配列する領域が観察され、IHCにより、多くの細胞は vimentin に陽性、CK AE1/AE3 に陰性を示し、一部では  $\alpha$ SMA と p63 にも陽性を呈した。これらの特徴から、本腫瘍を耳下腺から発生した悪性筋上皮細胞種と診断した。

- ポスター発表 2025年1月30(木)、31(金)日終日 ポスター・展示会場

ポスター番号:P-66 ○佐藤伸昭（株式会社ボゾリサーチセンター）

演題名 : Morphological characteristics of vascular lesions in rasH2 mice

医薬品などの毒性試験に用いる病理診断名は INHAND 用語集に準拠している。しかし、rasH2 マウスには必ずしも INHAND 用語集で表現できない病変が発生し、脾に観察される血管肉腫もその一つである。そこで rasH2 マウスの脾に生じる血管肉腫を他の系統マウスの血管肉腫と形態学的に比較した。その結果、rasH2 マウスの脾の血管肉腫には多量の線維成分が伴っており、腫瘍発生における脾柱の関与が示唆された。



安全性受託機関

株式会社 **ボゾリサーチセンター**